



第2期 橿原市教育大綱 アクションプラン

令和3年度～令和7年度

I 就学前の保育・教育、学校教育

方針Ⅰ 就学前の保育・教育の充実

1 就学前の保育・教育の質の向上

事業計画	特別な支援を要する児童や様々な家庭環境の中に置かれている児童など、個々の状況に合わせて対応するためのスキルや、児童がスムーズに小学校に入学できるための教育を行うスキルなどを教員が習得する機会として年間3回以上の研修を実施し、個々の資質を高めます。また、公開保育を行い、各園の教員・保育者が互いに学び合うことでスキルを平準化し、全体的な資質向上を図ります。				
目標	教員が専門的なスキルを習得し、平準化することで個々の児童の能力を引き出すとともに、児童の特性に合わせた機関に繋ぐ手立てを知ることでスムーズな小学校への入学に結び付けます。また、開かれた園を目指すことで、児童及び保護者の安心に繋がります。				
評価指標	研修受講者の理解度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100%	100%	100%	100%	100%
事業計画	特別支援補助の人的加配を行います。こども発達支援課と連携し、専門職員の定期的な訪問やオンライン支援により特別な支援を要するかどうかを観察し、必要に応じて個別相談を行うことで児童の特性を正確に把握します。そして、その特性に合わせた教育方法を専門職員が教員・保育者に指導、助言することで適切な教育を行います。				
目標	特別な支援を要する児童に対する支援計画の作成等の助言、指導を支援状況に合わせて段階的に行い、児童の自立に繋がります。				
評価指標	特別な支援を要する児童1人あたりの巡回等の直接的な指導による支援回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1.5回	1.7回	2回	2回	2回
事業計画	3歳児保育や預かり保育の拡充（週4日から週5日への拡充や長期休業中の実施等）、注文弁当の実施等、現代の家庭環境に合わせて保護者負担の軽減に努め、幼稚園に通いやすい環境の整備を行います。				
目標	様々な家庭環境の園児が入園できるよう、就学前教育の選択肢であり続けます。				
評価指標	通いやすさに関する保護者の満足度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80%以上	100%	100%	100%	100%

2 幼保小の連携

事業計画	保育所・幼稚園児の小学校訪問や、小学生の保育所・幼稚園訪問など、小学校の児童との体験交流活動を実施することで、小学校生活を事前に体験する機会を設けます。				
目標	小学校への入学直後に生じやすい不安や違和感を軽減し、保育所・幼稚園から小学校への滑らかな接続を目指します。				
評価指標	1所・園あたりの体験交流活動の実施回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2回	3回	3回	3回	3回

3 望ましい施設環境整備

事業計画	保護者や地域住民、関係機関に対する説明会を開催し、意思疎通を十分に図りながら、令和4年度に檀原市保育所・幼稚園適正配置実施計画を策定します。策定後は、当該計画に基づき、公立幼稚園を再編し、幼稚園型または幼保連携型の認定こども園を整備します。なお、幼保連携型認定こども園を整備する際には、民間活力を活用するため、公私連携手法による再編整備も検討します。さらに、今後、過小規模園となる公立幼稚園については、子どもたちの育ちに極めて大切な集団規模の観点から、新園児の募集を停止し、休園措置を行います。				
目標	一貫して質の高い保育・教育を提供するため、公立幼稚園を再編し、認定こども園の整備を進めます。				
評価指標	公立幼稚園の再編件数				
目標値※	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	—	—	—	—	—
評価指標	地域住民及び保護者への適正配置に関する説明会の開催件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	5件	10件	10件	10件	10件

※公立幼稚園の再編件数については現在、実施計画を策定中のため、策定後(令和4年度中)に目標値を示します。

方針2 学校教育の充実

1 確かな学力を培う

事業計画	全国学力・学習状況調査を自校で採点することにより、各学校において敏速に自校の実態や課題を把握することができるようになります。そして、校長のリーダーシップの下で、どのような学習方法が有効であるかを研鑽し、自律的・能動的な授業改善のサイクルを築きます。				
目標	実施体制の整った学校から順次開始することで波及効果を生じさせ、各学校が互いに協力し、切磋琢磨することのできる自律的・能動的な授業改善の機運を高めます。				
評価指標	自律的・能動的な授業改善のサイクルに取り組む学校数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	5校	8校	10校	15+6校	21+22校

2 豊かな心をはぐくむ

事業計画	他国の言語を母国語とする外国語指導助手(ALT)を派遣し、異なる文化圏の風習に触れる機会を設けることで、他国の文化を学び、受容し、共生することのできる力を育みます。合わせて、日本の文化についても副読本の配布等を行い、郷土愛や芸術文化に関する理解を深めます。				
目標	小学生の段階から多様な文化に触れさせ、それぞれの違いや良い点を学ぶことで、多様性を認め合う豊かな心を育みます。				
評価指標	ALT派遣延べ日数(全小中学校の累計)				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	900日	900日	900日	900日	900日

3 たくましい心身の育成

事業計画	全国体力・運動習慣調査の結果を基に、各学校において自校の実態や課題に向き合ったプランニングシートを作成します。そして、校長のリーダーシップの下でスポーツに親しみ、体力を向上させることのできる自律的・能動的な取組みを進めます。				
目標	実施体制の整った学校から順次開始することで波及効果を生じさせ、各学校が互いに協力し、切磋琢磨しながら体力向上を図ります。				
評価指標	プランニングシートの作成による体力向上に取り組む学校数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	10校	15校	20校	21校	21校

4 ICTを活用した能力の向上

事業計画	一人1台の端末、校内無線LAN及び各教室の電子黒板を利用し、不登校児童生徒等が教室にいるのと同じように授業を受けることのできる環境を整備します。また、そのための教職員のICT活用能力の向上に取り組めます。				
目標	教員が互いに授業を公開し合うことで、ICT活用能力の向上と平準化を図ります。				
評価指標	1校あたりのICTを使用した遠隔授業の年間公開回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3回	3回	5回	5回	5回
事業計画	毎日の授業において、端末を使用した自主的な学びを促すことで、自ら調べ、子ども同士で考えながら探求する習慣を身に付けます。				
目標	主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を実現し、情報活用能力を高めます。				
評価指標	全授業時間数における、端末を使用した主体的・対話的な学習に取り組む授業時間数の割合				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	70%	80%	90%	95%	100%

5 郷土の伝統や文化に関する教育

事業計画	木に触れたり、森林で体験活動をしたりすることで、SDG'sの視点を取り入れた自然環境の保全に向けた教育を行います。また、奈良県の木にまつわる歴史や文化についての学習を推進します。				
目標	木育を通して森林の減少や荒廃に関する理解を深め、自然環境の保全意識を高めます。また、身近な地域の歴史や文化を学びます。				
評価指標	木育を通じた自然環境の保全や地域の歴史文化の学習に取り組む学校数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0校	3校	5校	15校	21校

6 特別支援教育の充実

事業計画	子ども一人ひとりに応じた支援の方法や自立活動、環境整備に関する知識の積み上げ、個別の教育支援計画及び指導計画の作成について、特別支援教育コーディネーターを対象にした研修会を実施します。				
目標	特別支援教育に関する理解度を高めるため、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任の資質向上を目指します。				
評価指標	研修受講者の理解度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100%	100%	100%	100%	100%

7 いじめ・不登校に対する取組み

事業計画	いじめ・不登校対策指導員、スクールカウンセラー及び心理相談員を配置し、支援体制を強化します。また、学校に不安を抱く子どもたちが安心して登校できるようにするための「別室登校」の充実、虹の広場の利用、ICTを使った在宅での相談など、個々の状況に合わせた細やかなサポートを行います。				
目標	いじめ・不登校の兆候を早期に発見し、支援することで未然の防止に努めます。また、学力の低下を防ぎ、社会との関わりを保つことで子どもたちの進路選択を保障します。				
評価指標	長期欠席児童生徒のうち、別室登校をするか、虹の広場を利用した児童生徒の割合				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	30%	34%	38%	42%	45%

8 よりよい教育環境の整備

事業計画	「学校施設整備基本計画」及び「教育施設再配置基本方針」に基づき、年次的に長寿命化改良工事を実施します。				
目標	施設の老朽化改善、質的改善、バリアフリー、環境配慮、防災機能強化等を合わせて実施することにより学校施設を長寿命化し、子どもたちが安全・安心して継続的に学校施設を利用できるように整備します。				
評価指標	長寿命化改良工事完了校数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0校	0校	0校	2校	1校

事業計画	地域住民や保護者に対する説明会を開催し、十分な協議を行いながら、令和3年度に檀原市教育施設再配置実施計画（第1期）を策定します。策定後は、第1期の対象である白檀南小学校と白檀北小学校の統合校の開校に向けて、施設の長寿命化改修を実施します。また、統合校の開校・運営が円滑に行えるよう、学校・地域・PTA の代表らで構成する統合準備委員会を設置し、諸課題への対応策を協議します。また、第2期の再編整備に向けて、小中一貫教育の導入についても検討を進めていきます。				
目標	小規模化及び老朽化する小中学校を再編し、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備します。				
評価指標	小中学校の再編数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件
評価指標	再編に関する住民説明会及び統合準備委員会の開催件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	3 件	10 件	10 件	3 件	3 件
事業計画	地域や学校からの要望や檀原市通学路交通安全プログラムによる定期的な合同点検を実施し、通学路上の児童生徒の安全確保を図ります。				
目標	学校やPTA、教育委員会事務局、警察、道路管理者等による安全点検を行い、危険度を共有し、登校指導や整備工事等につなげます。				
評価指標	安全点検により抽出した危険箇所における各学校の登下校指導回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1 回	6回	6回	6回	6回
事業計画	新入学児童に対しては、体験入学等の機会を利用するなど、全家庭に対して入学時に必要な経費の一部を援助する制度を案内します。在校生については、毎年度当初に、全家庭に対して就学支援制度を案内します。また、家庭訪問等において家庭の状況を把握し、適切な支援が届くように就学支援制度の周知を進めていきます。				
目標	生活困窮世帯であっても必要な学習環境を整えられるように支援し、他の子どもと同じように、不自由なく学校生活を送ることができるようになります。				
評価指標	経済的理由により長期欠席する児童生徒数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0人	0人	0人	0人	0人

9 安心安全な給食の提供と食育

事業計画	地場産物の活用を促進し、郷土料理の提供を行います。「檀原の日」の給食等、毎月、食育の日を設定しテーマを決めた献立を提供します。また、食育の授業や講話を通して、地元の農産品や食物の旬等、食に関する知識を習得できるよう、学校全体で食育を推進します。				
目標	学校給食を通して郷土料理や地元の農産物、旬の食材を味わう体験をすることで、地域の食文化への興味や関心を引き出し、児童生徒の食に関する自己管理能力の形成を図ります。				
評価指標	学校給食における地場産物の使用品目数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	370 品目	380 品目	390 品目	400 品目	410 品目

方針3 発達相談・療育の充実

1 教育・福祉・保健が一体となった発達障がい者支援施設

事業計画	就学前においては、心理相談員による相談支援や発達状況を客観的に把握するための発達検査を行い、子どもの特性を見極めることで早期に必要な支援につなげます。また、発達段階に合わせて、幼児療育教室や児童発達支援事業所「かしの木園」で専門職員による相談や個別・集団の療育を行います。就学後においては、指導主事を中心に子ども、保護者又は教職員に対する相談支援や特別な支援を必要とする児童生徒に対する発達検査を行います。				
目標	子どもの特性を見極め、早期に必要な分野の支援につなげることで適切な支援を行います。また、保護者の理解を深め、子育てへの不安を解消します。				
評価指標	療育的ニーズに合わせた支援の保護者満足度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80%	85%	90%	95%	95%
事業計画	保育所（園）、幼稚園、小中学校及び学童クラブ等への巡回支援訪問を行い、インクルーシブ（包摂的）な視点で保育・教育について検討し、集団場面における子どもの発達状況に応じた適切な指導と必要な支援について、教職員に助言・指導を行います。また、子どもとの関わり方や学習支援等について、教職員と共に考える機会を持ちます。				
目標	インクルーシブな視点による保育・教育を浸透させることで、各施設及び地域における支援体制を強化します。				
評価指標	各施設における巡回支援訪問の有用度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80%	85%	90%	95%	95%
事業計画	教職員や保護者等に対し、発達障がい等に関連した研修や普及・啓発活動を行います。奈良県立医科大学附属病院と連携し、教職員や保護者等を対象に医療的な知見からみた相談を行います。また、発達障がいの理解促進のため、一般市民向けの講演会も開催します。				
目標	支援者の発達障がい等に関する理解を高め、支援技術の向上を図ります。				
評価指標	教職員等の発達障がい等についての理解度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100%	100%	100%	100%	100%

2 ライフステージに合わせた切れ目のない支援

事業計画	子どもの成長過程により、必要とされる支援も変化します。療育に重点を置き、各成長段階に適した支援者が、ライフステージ移行の時期に行う相談や会議等に関わり、協働したきめ細かな療育支援を行うことで、一人ひとりの成長に合わせた適切な支援に移行することができます。				
目標	ライフステージ移行の安定は、就学前からの早期療育が土台です。ライフステージの移行に合わせ、各専門職による個々の特性が理解された支援を継続します。				
評価指標	成長段階に合わせた支援の保護者満足度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80%	85%	90%	95%	95%

方針4 人権教育の推進

1 各学校・園における人権教育

事業計画	より丁寧な人権教育の推進を図るための人的支援として、それぞれの学校事情を鑑みて市内小中学校に児童生徒支援教員を配置します。児童生徒支援教員を対象に、研修会を毎月1回を目安に実施し、様々な人権課題に対する知識と児童生徒理解の力を深めます。				
目標	児童生徒支援教員の技量を高める等、人権教育の充実を図ることで、子どもたちの規範意識を高め、いじめのないなかま集団づくりを進めます。				
評価指標	全国学力学習状況調査のⅠ「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」Ⅱ「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問項目に対する「はい」の回答割合				
目標値	令和3年度 (実績)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	Ⅰ:96.9%(小)	Ⅰ:97.1%(小)	Ⅰ:97.3%(小)	Ⅰ:97.5%(小)	Ⅰ:97.7%(小)
	96.3%(中)	96.5%(中)	96.7%(中)	96.9%(中)	97.1%(中)
	Ⅱ:81.8%(小)	Ⅱ:82.3%(小)	Ⅱ:82.8%(小)	Ⅱ:83.3%(小)	Ⅱ:83.8%(小)
	76.1%(中)	77.1%(中)	78.1%(中)	79.1%(中)	80.1%(中)
事業計画	学校・園の教職員に対し、人権課題の多様化を踏まえた研修を計画的に実施することで人権意識の向上と知識の深化を図ります。また、学校・園の人権課題にきめ細やかに対応するため、学校・園の要請を受けた訪問指導を随時行い、課題解決に取り組みます。				
目標	訪問指導を充実させることで学校・園の取り組みの充実を目指します。				
評価指標	訪問指導の実施回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	5回	6回	7回	8回	9回

2 地域社会とともに目指す人権教育

事業計画	社会教育関係団体人権教育リーダー研修会を中心に、各種研修会を開催し、地域の人権教育リーダーを育成します。				
目標	多様な学びの場を提供し、人権教育の機会を充実させることで地域の人権意識を啓発し、講師団講師を中心とした人権教育リーダーが学校や地域の様々な場で活躍することを目指します。				
評価指標	社会教育関係団体人権教育リーダー研修会参加者の理解度(アンケート)				
目標値	令和3年度 (実績)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	65%	70%	75%	80%	85%
事業計画	檀原市人権教育研究会や檀原市人権教育推進協議会等を補助すること等により、フィールドワーク等の研修会を充実させ、教職員・保育士や地域の方への地域学習の学びの場を提供します。				
目標	教職員・保育士や地域人材の育成を図ることで、子どもたちがより深く地域の歴史や文化を学ぶことを目指します。				
評価指標	フィールドワークや街づくりに関する研修会等への参加人数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	100人	200人	300人	350人	400人

Ⅱ 生涯学習・社会教育

方針Ⅰ 生涯学習・社会教育の推進

1 次世代を担う子どもたちに必要な「生きる力」の育成

事業計画	青少年の非行などを未然に防止するため、関係機関や団体等と連携をとりながら、登下校や祭礼時の巡回・巡視活動、有害環境の浄化活動に取り組みます。また、青少年の被害を防止するための広報啓発活動を行います。				
目 標	家庭・学校・地域が一体となり、青少年の安全確保と健全育成のための環境を整備します。				
評価指標	巡回・巡視回数（下校時、朝・夜巡回、のべ回数）				
目 標 値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	200 回	200 回	200 回	200 回	200 回
事業計画	青少年とその保護者が抱える悩みに対する相談活動を実施し、助言、指導を行うとともに、関係機関と連携することにより、問題解決を図ります。				
目 標	家庭内だけで抱え込まず、相談することのできる場を整えることで、問題の解決につなげます。				
評価指標	相談終了者の割合				
目 標 値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	70%	70%	70%	80%	80%
事業計画	地域社会における青少年の健全育成を推進するため、地域の青少年育成団体の活動を支援するとともに、地区公民館を活用して大人との交流事業を実施します。青少年が地域内の様々な人と触れ合い、交流することを通じて人と人との繋がりを強化し、様々な体験・学習をすることのできる居場所づくりを進めます。				
目 標	様々な交流や体験を通し、社会の一員であることの自覚を醸成することで青少年の健全育成と社会参加への意識を培います。				
評価指標	生涯学習、社会教育事業への参加者数（子どもの延べ参加者数）				
目 標 値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1000 人	1500 人	3000 人	3500 人	4000 人

2 市民の「学ぶ意欲」の支援

事業計画	中央公民館、地区公民館等において、市民が自主的に学びたいことを学ぶことができる「地域学級」や「市民公開講座」を実施します。そして、学んだことを地域で活かすことができるように、受講者等から「生涯学習推進委員」を養成し、その活動を支援します。				
目 標	市民が楽しみながら学び、その学んだことを地域に還元することで交流を活性化し、地域で生き生きと暮らすことのできる社会を目指します。				
評価指標	生涯学習推進委員の活動人数（延べ人数）				
目 標 値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	350 人	350 人	400 人	420 人	440 人

事業計画	高齢者向けには教養、生活文化に健康を加えた講座を、若い世代向けには趣味や教養に関する講座を開催します。また、国際理解を深めるため、外国語教室や異文化に触れる歴史文化講座等を開催します。				
目標	市民が気軽に参加できる学習機会の場を設けることで、学習意欲やグローバル時代への対応力の向上を目指します。				
評価指標	受講者の満足度（アンケート）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80%	85%	90%	95%	95%
事業計画	公民館を拠点に活動する生涯学習活動団体（サークル）の活動を支援します。その一環として美術展覧会を開催し、活動成果の発表の場を設けることで意欲の向上を図るとともに、新たな参加者の募集に繋がります。				
目標	市民の生涯学習・文化芸術活動を盛り立てます。				
評価指標	美術展覧会での出品作品数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	175点	200点	220点	240点	250点

3 学校・家庭・地域の連携強化と、社会全体の教育力の向上

事業計画	地域住民による学校・園の支援活動を通じて、学校と地域の連携の下で子どもたちの健やかな育みを支えることのできる環境を整備します。				
目標	学校・家庭・地域が相互に連携し、協力し合うことにより、地域ぐるみで子どもたちを育みます。				
評価指標	地域住民による学校・園の支援活動への延べ参加者数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	500人	500人	550人	550人	600人
事業計画	家庭教育に関する講座や研修を実施し、家庭での教育力を高めます。また、保護者同士の交流を通じ、子育て問題などで孤立する家庭がないように働きかけます。				
目標	孤立を防ぎ、悩みを共有することで不安の解消につなげ、家庭教育力を高めます。				
評価指標	保護者同士の交流人数（延べ人数）				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	80人	100人	110人	120人	130人
事業計画	社会教育委員による積極的な建議・意見具申・助言を受けることで、住民や地域のニーズを反映した社会教育方針を作成します。				
目標	地域住民のニーズを反映した社会教育を推進します。				
評価指標	社会教育委員による意見具申・助言の回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2回	3回	4回	4回	4回

方針2 文化・芸術の推進

1 施設の維持管理

事業計画	万葉ホールは文化芸術活動を行うための拠点であり、「かしはら万葉ホール個別施設計画」に基づき、年次的に長寿命化を実施し、効果的な施設管理を図るとともに魅力ある施設運営を実施します。				
目標	文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動の場を提供します。				
評価指標	ロマンピアホールの利用可能日に対する利用日の割合				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0%	20%	35%	40%	40%

2 文化ホール

事業計画	万葉ホールにおいて、クラシックや伝統芸能などの公演や参加型イベントを実施し、子どもから大人まで、多くの人が芸術に触れる機会を提供します。				
目標	多様なジャンルの公演を行い、様々な芸術の鑑賞の機会を提供します。				
評価指標	入場可能な席数に対する入場者数の割合				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	0%	50%	55%	60%	60%

3 こども科学館

事業計画	科学の原理を楽しく体験しながら学ぶため、展示物の維持、自主イベントや実験の開催、工作等により子どもたちの科学への興味を引き出します。				
目標	科学に興味を持ってもらえるよう、多くの方に入館してもらいます。				
評価指標	こども科学館入館者数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	10,000 人	20,000 人	40,000 人	40,000 人	40,000 人

4 図書館

事業計画	市内転入者への図書館利用案内の配布、1歳 6 か月児健康診査時や小学生の図書館見学の図書館利用促進、SNS を活用した図書の紹介を積極的に行い、図書館の存在をアピールします。				
目標	誰もが親しみの持てる魅力ある図書館を目指します。				
評価指標	新規利用登録者数(人)				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1,400 人	1,500 人	1,600 人	1,700 人	1,800 人

5 昆虫館

事業計画	奈良県唯一の自然史系博物館として、昆虫を中心とした生物や自然、環境に関する情報を提供します。命や自然の大切さを感じたり学べる拠点施設としてイベント等を実施し、学習機会の充実をはかります。				
目標	企画展等への来訪(集客)数増加を目指します。				
評価指標	企画展入館者数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	40,000 人	45,000 人	50,000 人	55,000 人	60,000 人

方針3 文化財を活用した教育の推進

1 文化財を活用した学校教育の推進

事業計画	歴史に憩う榎原市博物館において、対話型の解説に加えて土器等のハンズオン体験や接合体験、新沢千塚古墳群での体感学習を通じた校外学習を行います。また、学校等に出張して、土器等を用いた出前授業を行います。学校と連携し、積極的に情報発信をして利用を呼び掛けることで、児童生徒が歴史を知識として知るだけではなく、実際の経験に基づく「体験を通じた主体的・対話的で深い学び」を実践できるように支援します。				
目標	児童生徒が歴史に関する体験型学習を経験できる機会を増やします。				
評価指標	小中学校の校外学習及び出前講座の利用件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	10件	11件	13件	15件	17件

2 文化財を活用した生涯学習

事業計画	市民が等しく学び、楽しむことができるように、歴史に憩う榎原市博物館が保有する文化財等の資産を活用した展覧会や啓発活動、イベント等を開催します。また、より多くの市民が、様々な方法で榎原市の歴史や文化に対する興味を持ち、理解と愛着を深められるように、地域への講師派遣を推進します。				
目標	榎原市の歴史や文化に親しみ、学ぶことのできる機会を増やします。				
評価指標	博物館利用者数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	10,000人	10,000人	11,000人	11,000人	11,000人
評価指標	地域への講師派遣回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	10回	10回	12回	12回	12回
事業計画	市内には藤原京跡をはじめとする多くの埋蔵文化財（遺跡）が分布しており、土木建築行為等に係る遺跡の保護に関する協議や試掘調査、工事への立会い、埋蔵文化財の諸申請等を行います。保護が図れない場合は、発掘調査を実施し、本市の貴重な埋蔵文化財の記録を作成します。発掘調査の記録や出土した遺物については、報告書や年報として資料化するとともに、奈良文化財研究所のホームページ「全国遺跡報告総覧」に登載して広く公開を図ります。				
目標	埋蔵文化財（遺跡）の保護に努めます。また、発掘調査による出土資料を整理し、報告書・年報にまとめることで埋蔵文化財（遺跡）に関する情報発信を行います。				
評価指標	報告書・年報の公開件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2件	3件	1件	2件	3件

事業計画	建造物や美術工芸品、古文書など、様々な文化財を榎原市指定文化財に指定し、保存に努めます。また、発掘調査等の調査研究の成果や文化財を保存するための取組みを広報や市のホームページ等で紹介します。				
目標	榎原市の歴史を物語る様々な文化財の価値や保存のための取組みを発信し、文化財への理解と愛着を深めます。				
評価指標	ホームページの閲覧件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	200件	400件	600件	800件	1000件

方針4 今井町の伝統的町並みを活かした歴史・文化の啓発

1	学びを通して郷土への誇りや愛着をはぐくむ				
事業計画	今井町の伝統的な町並みの価値や魅力を正しく知ってもらうため、SNSを活用し、今井町の歴史や文化等についての情報を発信します。				
目標	今井町が本市の貴重な歴史的遺産であることを広く知ってもらうことで、今井町の町並みの維持継承に繋がります。				
評価指標	SNSの閲覧件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	500件	550件	600件	650件	700件
事業計画	次世代を担う児童生徒に対して今井町への社会見学を積極的に啓発し、実際に今井町の町並みを見学してもらうことにより、その価値や魅力を知ってもらえる取組みを実施します。				
目標	市内の児童生徒に今井町の歴史的町並みを見学してもらうことで、郷土への誇りや愛着をはぐくみます。				
評価指標	社会見学の受入れ件数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	1件	2件	3件	4件	5件
事業計画	市のホームページ等により出前講座の開催を幅広く周知するとともに、児童生徒に対して出前講座を行うことで、今井町の町並みの価値や魅力を正しく伝え、興味を持ってもらえる取組みを実施します。				
目標	今井町の町並みの価値や魅力を正しく伝え、興味を持ってもらうことで来訪を促し、今井町の歴史や文化の啓発に努めます。				
評価指標	出前講座の実施回数				
目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	2回	3回	4回	5回	6回